



世界から存在を期待される 企業を目指す

本田技研工業株式会社
代表取締役社長

伊東 孝紳

はじめに

Honda は、2013 年 9 月にフィットをフルモデルチェンジし、すべてにわたって大幅に進化させました。私は 2009 年の社長就任以来、新型フィットを世界一のコンパクトカーへ成長させることが、Honda の成長戦略の根幹となると考えてきました。今回プラットフォームからパワートレイン、デザインにいたるまですべてを刷新させるべく開発を進めてまいりましたが、特にこだわったものは、1 番へのこだわりでした。

まずは燃費で 1 番を取る為、2011 年よりはじめた「アース ドリームス テクノロジー」を新たなステージに進化させました。フィットにさきがけ、6 月より発売を

開始したアコードハイブリッドに搭載した 2 モーターハイブリッドシステム SPORT HYBRID i-MMD は、中型クラスでありながらリッター 30km という圧倒的な低燃費を実現しました。さらに、新型フィットに搭載した 1 モーターシステム SPORT HYBRID i-DCD は、1 リットルあたり 36.4 キロの国内最高の燃費性能を実現した Honda 渾身のハイブリッドシステムです。1 モーターシステムの特徴でもある、軽量コンパクトさを維持しながら、2 モーター同等の EV 走行を可能とした魔法のようなハイブリッドシステムであり、絶対の自信を持っています。

Honda は今後このハイブリッドシステムを搭載し



フィット ハイブリッド・Fパッケージ オプション装着車

たモデルを順次投入してまいります。そして、2016年までにこのコンパクトシリーズで年間150万台の世界販売をめざしてまいります。

Hondaらしさの追求

さらに、クルマ作りのあり方もこのフィットを皮切りに、大きく進化させる改革を進めてまいりました。グローバルコンパクトシリーズを世界中のお客様へ、地域ベストの仕様と価格でお届けする為、各地域の開発、生産、そして購買部門が一体となって全世界でベストなクルマ作りができるように、「真のグローバル化」と「ものづくりの進化」という改革を行いました。

まず「真のグローバル化」では、地域経営の強化を目指し四輪事業における、日本中心のオペレーションで米国の成功事例を各国に適用するという、これまで続けてきた事業構造ではなく、現地のニーズや社会の変化に対して、迅速かつ的確に対応できる体制を整えました。また二輪、四輪、汎用の各事業の独自性も強化するため、各々が固有のお客様や競争相手に応じた施策を展開できるようにしました。

さらに「ものづくりの進化」では、ものづくりの上位概念、すなわち「お客様に良いものを早く、安く、低炭素でお届けする」ことに集中します。

「真のグローバル化」と「ものづくりの進化」を実現し、目指すのは地域独自のニーズ、とりわけHondaが創業以来大切にしてきたお客様の声を聞き、その期待を何倍もの喜びに変える活動をすることです。その上でHondaらしい強烈な個性を発揮し、ブランドとして際立たせていくことが、大切であると考えています。

5月に発表したF1参戦では大きな反響を頂きました。Hondaは多くのお客様から「何かをやってく



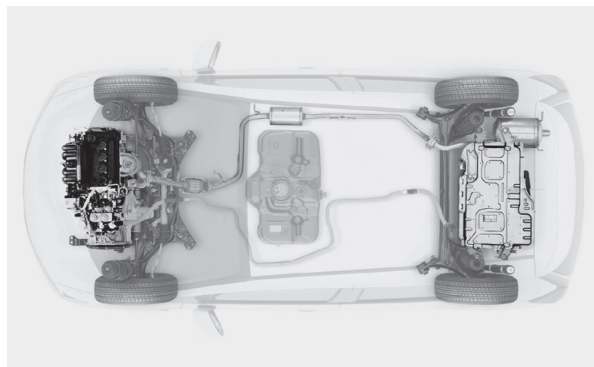
アコード ハイブリッド EX

れる会社」という期待が寄せられています。つまりHondaの個性とは、人々に圧倒的な驚きと感動をもって喜びを提供することだといえます。それを実現する為に必要なのは、例えばモータースポーツ活動に象徴される大きな夢への挑戦であり、ものづくりにおいては利便性や楽しみ、価格、環境性能、サービスと我々が重視する全ての領域で、誰もが想像もしなかったレベルを達成することに他なりません。こうしたホンダらしさを追求していくこと、これこそがHondaの成長・発展の原動力であると考えています。

ハイブリッドスポーツカー

2013年は6月に発売を開始したアコードハイブリッド、9月に発売したフィットはいずれも現在大変好調な販売となっております。そして、今後は大型車やスポーツカーの運動性能を革新する3モーターのSH-AWDなど、小型車から、スーパースポーツまで、優れた燃費性能を実現させながら、走る楽しさを高い次元で両立させる、Honda独自の新世代ハイブリッド技術を準備しておりますのでどうぞご期待ください。

今後もHondaは世の中から存在を期待される企業を目指してまいります。



i-DCDハイブリッドシステム イメージ



SPORT HYBRID i-MMD システムレイアウト